

## 【ドラえもん誕生日スペシャルの立ち位置について考える】

下津聖平

[はじめに]

ドラえもんというコンテンツは非常に奥深い。短編、大長編、アニメ、映画などストーリー的な面でも多岐にわたる。また、ドラえもんの絵を二次創作で描くことやグッズを集めることなど上げていけばきりが無いほどドラえもんの世界というのは面白い。今回私が取り上げるのは前者のストーリーの方である。先ほど述べたストーリーの中で一番印象に残りやすいと感じる物はどれだろうか？おそらく、多くの人は映画と答えるのではないだろうか。その理由として、1年の中でも限られた期間映画館で見られるということ、1つのストーリーとしての時間が長いなどという理由が特別な雰囲気を作り出すのではないだろうか。実際、私の友達で小学生の時にドラえもんに興味があった友達が大学生になった今でも映画は毎年見ているという事例がある。映画以外（短編、大長編、アニメ）は先ほど述べた2つの理由が該当しないためあまり印象に残らないと考えられる。短編やアニメが好きな私にとってこの出来事は非常に悲しい。そこで、今回は「ドラえもん誕生日スペシャル」の立ち位置が映画のように印象に残りやすい物なのか、それとも、映画以外（短編、大長編、アニメ）のように印象に残りにくい物なのかについて考察する。

[ドラえもん誕生日スペシャルとは？]

まず「ドラえもん誕生日スペシャル」とは何かについて説明する。2012年9月3日が誕生日であるというドラえもんの設定にちなんで、毎年9月3日前後のドラえもん放送日になるとドラえもんの誕生日を祝うような話を放送するという物である。放送時間の方も普段のアニメの放送は30分であるが、誕生日スペシャルは1時間放送されるのである。話の最後には「ハッピーラッキー・バースデー！」という誕生日の日に聞きたくなる曲が流れる。そして、その話というのはアニメオリジナルの話が放送される場合もあれば短編にある話を放送する場合もある。ここで知っておいてほしいことは「ドラえもん誕生日スペシャル」はアニメの一種であるということである。今回取り上げるのは、2005年から放送開始されているわさドラこと「水田わさびドラえもん」についてであり、のぶドラこと「大山のぶ代ドラえもん」については取り上げないこととする。

[ドラえもん誕生日スペシャルの話一覧と歴史]

以下は2022年までに放送されたドラえもんの誕生日スペシャル一覧である。

2005年・・・「ご先祖さまがんばれ」

2006年・・・「のび太くん、さようなら！ ドラえもん、未来に帰る…」

2007年・・・「ドラえもんが生まれ変わる日」

2008年・・・「ドラえもんの青い涙」

2009年・・・「ドラえもんの長い一日」

2010年・・・「決戦！ネコ型ロボット vs イヌ型ロボット」  
2011年・・・「走れドラえもん！銀河グランプリ」  
2012年・・・「アリガトデスからの大脱走」  
2013年・・・「真夜中の巨大ドラたぬき」  
2014年・・・「地底100マイルちょっとの大作戦」  
2015年・・・「のび太特急と謎のトレインハンター」  
2016年・・・「天才のび太の飛行船ゆうえんち」  
2017年・・・「謎のピラミッド!? エジプト大冒険」  
2018年・・・「クジラとまぼろしのパイプ島」  
2019年・・・「未来の迷宮（ラビリンズ） おかし城（キャッスル）」  
2020年・・・「ウルトラミキサー」「ムードもりあげ楽団」「のび太の恐竜」  
2021年・・・「のび太の惑星探査ミッション」「マジックの使い道」「どら焼きが消えた日」  
2022年・・・「ドラヤキ星人の逆襲!?!」「さがせ！野比家のへっぽご先祖さま」  
「勝利を呼ぶチアリーダー手ぶくろ」

最初の2005年に放送された「ご先祖さまがんばれ」は短編にもある話である。そこからしばらくは、アニメオリジナルの話が続く。そして、2020年に放送されたこれら3つの話というのは、全て原作にある話である。2020年は「ドラえもん」が連載されてから50周年という節目の年でありあえてこれまで通りアニメオリジナルの話を放送するのではなく、短編にある話を放送したのだと考えられる。そして、2021年の「マジックの使い道」と2022年「勝利を呼ぶチアリーダー手ぶくろ」は短編にある話である。それ以外の「のび太の惑星探査ミッション」「どら焼きが消えた日」「ドラヤキ星人の逆襲!?!」「さがせ！野比家のへっぽご先祖さま」はアニメオリジナルの話である。

これまでの流れを踏まえると、2005年から2019年までは1時間で1話を放送するという流れであったが、2020年からは1時間で3話を放送するという方向に変わっている。それと同時に、短編にある話も誕生日スペシャルでも1話は放送するという感じになっていると考えられる。近年は誕生日スペシャルも普段のアニメに近くなっているのが妥当であろう。

[昔（2006年～2019年）のドラえもん誕生日スペシャルについて]

水田わさびドラえもんになって最初である、2005年を除いて2019年までは全てアニメオリジナルの話であったと先ほど述べた。では、2006年～2019年までのドラえもん誕生日スペシャルがどのような物なのかをもう少し具体的に見ていこう。

昔（2006年～2019年）のドラえもん誕生日スペシャルも大きくわけて2つに分けることができるのではないだろうかと思はれる。2006年～2013年と2014年～2019年である。その理由は、前者の方は話のタイトルに「ドラえもん」という言

葉が入っているという点から（2012年の「アリガトデスからの大脱走」を除くとドラえもんを思わせる言葉がタイトルにある）もよりドラえもんが主役であるという物なのに対して、後者はその特徴が見られない。後者はむしろ、話のタイトルに「のび太」という言葉が入っているものまである（2015年と2016年）。この点からも、ドラえもんの誕生日をより祝おうとしているのは2006年～2013年の話だと見てとれる。

先ほど、前者はドラえもんに焦点を当てていると述べたが具体的にどのような焦点が当たっているのだろうか。それは、ドラえもんの非日常的な面であると考えられる。「生まれ変わる」「銀河グランプリ」などという物は非日常であると単語を見れば分かるだろう（ドラえもんは日常的に銀河に行かない）。「青い涙」という物は一見彼の日常であるかのように見えるが、ドラえもんと誕生日スペシャルに登場するキャラクターのやりとりから非日常であると言えるだろう（星野源の「ドラえもん」の歌詞にある通りドラえもんが涙を流すのは日常である）。ドラえもんに限らず我々人間にとっても誕生日という物は年に1度だけ来る特別な日であるということからも非日常と言えるであろう。

後者の方についても同様に考えていく。先ほど話のタイトルに「のび太」という言葉が入っていると述べた。この点からもドラえもんの他にのび太にも焦点が当たっていると考えられる。場合によってはドラえもんよりものび太の方に大きく焦点が当てられている場合もあると思ってしまう話もある。例えば、2015年の「のび太特急と謎のトレインハンター」という話はその例であると言えるのではないだろうか。この話では、未来から来た謎のトレインハンターこと“モサロ”たちが列車と化したのび太の家を狙っているのび太やドラえもんが自分の家を守るというようなストーリーである。とあるゲームの影響でドラえもんが「お」のつく駅を通過するまでひみつ道具を使えなくなってしまった。最終的には、ドラえもんはひみつ道具を使えるようになりモサロたちを倒した。結果として、モサロたちを倒したのはドラえもんであった。しかし、この話で野比家の列車の車輪を押して「お」のつく駅を通過させたのはのび太であった。のび太の頑張りがないとドラえもんはひみつ道具を使うことができなかった。この点では、ドラえもんよりのび太に焦点が当たっていると言えるのではないだろうか。

このようになったのは「のび太の誕生日スペシャル」がなくなったからだと考えられる。後で詳しく述べるが「のび太の誕生日スペシャル」が存在していた。つまり、ドラえもんとのび太の誕生日を一緒に祝えばいいじゃないかという発想になったのだろう。ドラえもんの世界に限らず、我々人間でも兄弟や姉妹の誕生日をどちらかの誕生日にまとめて祝うというような発想に近いだろう。

[今（2020年～2022年）のドラえもん誕生日スペシャルについて]

次に今（2020年～2022年）のドラえもん誕生日スペシャルがどのような物なのかもう少し具体的に見ていこう。2020年にドラえもん誕生50周年を記念したこの年を境にドラえもん誕生日スペシャルというのも大きく変わったと考えられると先ほど述べ

た。短編の話も放送するようになりより普段のアニメに近づいていると言えるということである。2021年の「マジックの使い道」と2022年「勝利を呼ぶチアリーダー手ぶくろ」どちらもこれとってドラえもんが主役と言える話ではないように見てとれる。ドラえもん誕生日スペシャルは意味を失ってしまったのだろうか。いや、そんなことはない。どういう意味なのだろうか。

結論から言うとこれまでと違った意味で我々視聴者を楽しませてくれているように感じる。タイトルから見て察しがついた方もいるかもしれないが、2021年放送の「ドラ焼きが消えた日」と2022年放送の「ドラヤキ星人の逆襲!？」という話実は繋がりがあるのである。つまり、「前編」と「後編」と言ったような感じで1年後に1年前の話を思い出させるかのような内容を放送していて、まさかの繋がりがあったという流れである。また、2022年放送の「さがせ!野比家のへっぽご先祖さま」という話はアニメオリジナルの話であり「ドラえもん」のことを全く知らない人が見たらただのアニメの1話にしか見えないだろう。しかし、ドラえもんの知識がある程度ある人からすれば、この話の最後のシーンなんか「ドラえもんの始まり」に繋がったと理解できて非常に面白いと感じられる。

#### [その他、水田わさびドラえもんのスペシャル（らしき物）について]

これまでドラえもん誕生日スペシャルについて述べてきたが、水田わさびドラえもんには他にも「スペシャル（らしき物）」があるのでいくつか紹介する。

先ほども述べた「のび太の誕生日スペシャル」である。ドラえもんのと同様に、のび太の誕生日である8月7日前後になるとのび太にちなんだ話が放送されるという物である。2009年に放送された「のび太の中ののび太」や2010年に放送された「のび太の誕生日冒険記」などがある。「ドラミちゃんの誕生日スペシャル」という物もある。これまでと同様に、彼女の誕生日の12月2日前後になると彼女にちなんだ話が放送されるというものである。2007年に放送された「王子を守れ!伝説のドラミ三剣士」や2014年に放送された「ドラミの生まれた日」などがある。「ジャイアンの誕生日スペシャル（らしき物）」もある。これまでと同様に、彼の誕生日である6月15日前後になると彼にちなんだ話が放送されるという物である。2014年に放送された「たけしのズンドコ誕生日」や2017年に放送された「スランプ!ジャイアン愛の新曲」などが上げられる。ちなみに、これらの話ではジャイアンが歌っていた。前者は、氷川きよしの大ヒット曲「きよしのズンドコ節」をまねて「たけしのズンドコ節」にアレンジして歌っていた。後者は、「ありがとう、オーレ!」という新曲を歌っていた。これまでと同様にスペシャル（らしき）物はスネ夫としずかちゃんにも存在する。スネ夫の誕生日は2月、しずかちゃんの誕生日は5月なので、これまでと同様にこれらの時期になるとちなんだ話が放送されるという物である。それと、「大みそかだよドラえもんスペシャル」である。その名の通り、大みそか（年によっては大みそかの数日前の場合もある）にドラえもんのスペシャルとし

て1時間にわたって放送されるという物である。短編にある話をあまり変更せずに放送するのがメインであり、アニメオリジナルの話はあまり放送されない。短編にある話を大きく変更して放送する場合もある。アニメオリジナルの話として、2009年に放送された「どら焼き伝説を追え！」などがある。短編にある話を大きく変更して放送した例として2011年に放送された「天の川鉄道の夜」などがある（ちなみに水田わさびドラえもん版のこの話は私が一番好きな話なので非常にオススメである）。

以上これまで述べてきたスペシャルをもう一度まとめる。「ドラえもん誕生日スペシャル」「のび太の誕生日スペシャル」「ドラミちゃんの誕生日スペシャル」「ジャイアンの誕生日スペシャル（らしき物）」「スネ夫の誕生日スペシャル（らしき物）」「しずかちゃんの誕生日スペシャル（らしき物）」「大みそかだよドラえもんスペシャル」がある。

#### [考察・まとめなど]

##### 1. なぜ「ドラえもん誕生日スペシャル」を選んだのか？

先ほど水田わさびドラえもんのスペシャルにはいくつか種類があるということ述べた。この文章のタイトルにもある通りメインは「ドラえもん誕生日スペシャル」について考えるというものである。ではなぜ私がなぜこのスペシャルを選んだのか。それは、これが一番印象に残りやすいと考えたからである。まず、映画のように毎年放送されるという物は印象に残りやすいと考えられる。ドラえもんを放送しているテレビ朝日が「〇〇スペシャル」と公式的に述べて原則として毎年放送しているのは「ドラえもん誕生日スペシャル」と「大みそかだよドラえもんスペシャル」であると言える。この2つ以外のスペシャルにおいてもそれらしき話は放送しているように見えるがテレビ朝日が「〇〇スペシャル」と公式的に述べていない点からどうしても劣ってしまうだろう。疑問に思った人はテレビ朝日『ドラえもん』番組サイトを見てほしい。また、「ドラえもん誕生日スペシャル」と「大みそかだよドラえもんスペシャル」はこれら以外のスペシャルよりも印象に残りやすい点が他にもあると考えられる。前者は、「ドラえもん」という作品の主人公とも言えるドラえもんに焦点を置いている点、後者は、1年の最後に見る話であり、親近効果という最後に提示された情報は印象に残りやすいという点からも優勢であると考えられる。そして、決めてとなったのは放送される話である。前々から述べてきたが、前者はアニメオリジナルの話がメインであり、後者は短編の話がメインである。映画においても大長編の話をそのまま映画化している場合があるので、「いや、そのりくつはおかしい」と突っ込まれそうである。後者は、短編にある話をそのまま放送していて1話あたりの時間も短い場合が多い。つまり、普段放送されている話と根本は基本的に変わらず1年の最後に見るという点で印象に残ると思い込みやすいと考えられる。だから、残った「ドラえもん誕生日スペシャル」を選んだ。

##### 2. 「ドラえもん誕生日スペシャル」と「映画」

では、本題である「ドラえもん誕生日スペシャル」の立ち位置について考察しよう。結論から言うと、やはりこれは映画より劣ってしまい印象に残りにくいと考えられる。映画館のような特別な空間で見るのではなくテレビで見るという点から普段のアニメ放送の一種である点、放送時間が映画の方が長い点などが考えられる。参考までに、2023年の「映画ドラえもん のび太と空の理想郷」上映時間は1時間47分だそうだ。昔(2006年～2019年)のドラえもん誕生日スペシャルは、1時間放送で1話放送すると言ったが、実際はコマーシャルなども含まれるためストーリーとしては1時間より短い。厳密には、映画の上映時間の半分くらいにしかならないと言えるのではないだろうか。

昔(2006年～2019年)のドラえもん誕生日スペシャルは、2006年～2013年と2014年～2019年の2つに分けることができ、前者はよりドラえもんの誕生日を祝おうとしていて、後者はのび太の誕生日も一緒に祝おうとしていると考えられると先ほど述べた。そして、ドラえもん誕生日スペシャルにもその話にのみ登場するオリジナルキャラクターが描かれている。これは、映画と同様であると考えられる。ドラえもんの映画の意味は何なのだろうか？のび太自身が成長する物であると私は考える。その理由として、映画のタイトルに「映画ドラえもん のび太の○○○」と書いているからである。映画ドラえもんの部分は「ドラえもん」という作品の映画であることを言っている。のび太の○○○というのは、のび太に焦点を置いていて彼が映画オリジナルキャラクターと仲を深める物だと考えられる。

2014年～2019年の方は、のび太の方に焦点が当たる場合があり、ドラえもん誕生日スペシャルにもオリジナルキャラクターが登場する。お気づきだろうか？この期間の話が一番映画に近いと考えられると言いたいのである。この根拠として、何らかの問題が発生してのび太を初めドラえもんやドラえもん誕生日スペシャルにもオリジナルキャラクターが問題を解決して友情を深めるという物である。まさに映画の流れと一致するのではないだろうか。映画と一番近いと考えられるこれらの年の話でさえドラえもんの話題としてあまり出ることはないと私は思う。中にはドラえもん誕生日スペシャルにそのような話があったかな？と忘れていた人も見えるように見える。このような点からもドラえもん誕生日スペシャルは映画より印象に残りにくい物なのだろう。

### 3. 「ドラえもん誕生日スペシャル」や「アニメ」は「映画」のようになれるのか？

以前私はこのサークルの部員とアニメのドラえもんのあり方について議論したことがある。毎週30分で2話(短編にある話やアニメオリジナルの話も両方)を放送するのか、ドラえもん誕生日スペシャルみたいに1時間の(アニメオリジナルの)話を1か月に1回放送するのかどっちがいいのかという物だった。私は毎週ドラえもんが見たいという理由で前者の方がいいと考えた。しかし、ある人は毎週見るよりも1か月に1回でもいいから印象に残る話が見たいと後者の方がいいと意見を述べる人もいた。確かに、頻度が少なければ少ないほど特別であると人間の脳は思い込んで印象に残りやすいという考えは当ては

まっているのだろう。ドラえもん短編ことてんとう虫コミックの30巻に「ひさしぶりトランク」という話があり、この話が伝えたいこととして久しぶりに会うからこそなつかしく特別な雰囲気を作り出して記憶に残りやすいという教訓がある。確かに、アニメの放送「頻度」を少なくするとドラえもん誕生日スペシャルも印象に残りやすいと考えられるが、アニメの放送「頻度」を減らしても印象には残らないと考える。

「頻度」の他に「行動（出向くという意味）」がない限り印象には残らないと考える。それは、最初に述べた通り映画は映画館に出向いて見るから印象に残るということである。「行動（出向くという意味）」することに意味があるという事例を紹介する。このサークルでは例年9月3日のドラえもん誕生日に神奈川県川崎市にある藤子・F・不二雄ミュージアムへ訪問をする。普段の活動では外に出向かず部屋の中で活動することが多いが、この日は外に出向くこともあってか普段の活動より多くの人々が来ているという現状がある。「行動（出向くという意味）」ということは我々人間に特別な意味をもたらしてくれると考えられる。これが、映画にはあり、ドラえもん誕生日スペシャルにはないという点が印象に残らない一番大きな理由だと考えられる。

コロナ禍をきっかけに、出向く頻度が減った（人との接触を避ける、遠隔化がより進んだという点から）ように思われる。そして、これから科学技術がますます発展して出向かなくても多くのことができる時代になると考えられる。しかし、そのような時代がきても時には現場に出向くために行動するべきなのだろう。そう、まさに「科学がすべてではない！科学は人間の生活を豊かにしたが、同時に心を貧しくしたのではあるまいか！！」というドラえもん（藤子・F・不二雄先生）の言葉を忘れてはいけないのだろう。

#### [注意]

この文章（ドラえもん誕生日スペシャルの立ち位置について考える）は、2023年8月に開催された2023年の夏のコミックマーケットにて、早稲田大学ドラえもん研究会が発表した2023年「早稲田大学ドラえもん研究会会誌2023年8月号」の会誌の内容を再録したものである。作者も同じである。